

調達要求番号：

陸 上 自 衛 隊 仕 様 書		
物品番号	仕 様 書 番 号	
高機動車	GW-D 0 1 1 0 0 1 AA	
	防衛大臣承認	平成 5 年 2 月 2 4 日
	作 成	平成 5 年 2 月 8 日
	変 更	令和 6 年 8 月 2 7 日
	作成部隊等名	補給統制本部 火器車両部

1 総則

1.1 適用範囲

この仕様書は、陸上自衛隊において使用する高機動車（以下，“車両”という。）について規定する。

1.2 用語及び定義

この仕様書で用いる用語及び定義は、次によるほか、J I S D 0 1 0 1、J I S D 0 1 0 2及びG L T - C G - Z 0 0 0 0 0 1による。

1.2.1

空車状態

車両に燃料、潤滑油、冷却水などを全量搭載し、携行工具、附属品及び予備品を取付位置などに収納した状態をいう。ただし、タイヤチェーン、燃料携行缶、洋形おの、ショベル及びバチツルハシは、含まない。

1.2.2

最大積載状態

空車状態の車両に、操縦手1名（80 kg）、助手1名（80 kg）及び最大積載質量1 350 kgの荷物を均等に積載した状態をいう。

1.3 製品の呼び方

製品の呼び方は、調達要領指定書によって指定する場合を除き、高機動車とする。

1.4 引用文書

この仕様書に引用する次の文書は、この仕様書に規定する範囲内において、この仕様書の一部を成すものであり、入札書又は見積書の提出時における最新版とする。

a) 規格

J I S A 8 9 0 2	ショベル及びスコップ
J I S B 4 6 0 4	モンキレンチ
J I S B 4 6 0 9	ねじ回し－すりわり付きねじ用
J I S B 4 6 1 4	コンビネーションプライヤ
J I S B 4 6 3 0	スパナ
J I S B 4 6 3 3	十字ねじ回し
J I S C 7 5 0 6 - 1	自動車用電球類－第1部：寸法，電氣的・光学的初特性
J I S D 0 1 0 1	自動車の種類に関する用語
J I S D 0 1 0 2	自動車用語－自動車の寸法，質量，荷重及び性能
J I S D 1 0 1 1	自動車部品－スピードメーター校正方法

- | | |
|--|-----------------------------|
| J I S D 1 0 1 2 | 自動車—燃料消費率試験方法 |
| J I S D 1 0 1 4 | 自動車加速試験方法 |
| J I S D 1 0 1 5 | 自動車—惰行試験方法 |
| J I S D 1 0 1 6 | 自動車最高速度試験方法 |
| J I S D 1 0 1 7 | 自動車—急坂路試験方法 |
| J I S D 1 0 1 8 | 自動車長坂路試験方法 |
| J I S D 1 0 2 2 | 自動車運行試験方法 |
| J I S D 5 3 0 1 | 始動用鉛蓄電池 |
| J I S D 6 6 0 5 | トラックトラクタ及びトレーラ用エアブレーキカップリング |
| J I S D 6 6 0 6 | トラックトラクタ及びトレーラ用 7 極電線カップリング |
| J I S D 8 2 0 1 | 自動車用タイヤゲージ |
| J I S K 5 5 7 2 | フタル酸樹脂エナメル |
| J I S K 5 6 5 1 | アミノアルキド樹脂塗料 |
| J I S R 3 2 1 1 | 自動車用安全ガラス |
| N D S Z 8 0 1 1 | 角形銘板 |
| N D S Z 8 2 0 1 | 標準色 |
| b) 仕様書 | |
| D S P Z 1 0 0 5 | 燃料携行缶 |
| D S P L 4 7 6 8 | 帆布 |
| G L T - C G - Z 0 0 0 0 0 1 | 陸上自衛隊装備品等一般共通仕様書 |
| G S - C 2 1 4 4 8 0 | 車両無線機 |
| G S - C 2 0 4 4 9 2 | 車両無線機空中線 J A T - F () |
| c) 制式要綱 | |
| G 2 0 5 1 | 8 5 式野外無線機 |
| d) 法令等 | |
| 消防法（昭和 2 3 年法律第 1 8 6 号） | |
| 道路運送車両の保安基準（昭和 2 6 年運輸省令第 6 7 号） | |
| 国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成 1 2 年法律第 1 0 0 号） | |
| 自衛隊の使用する自動車に関する訓令（昭和 4 5 年防衛庁訓令第 1 号） | |
| 技術変更提案の処理について（通達）〔陸幕装計第 1 0 4 号（6． 2． 1 4）〕 | |

2 製品に関する要求

2.1 一般的要求事項

一般的要求事項は、次による。

- この車両は、 -30°C ～ $+40^{\circ}\text{C}$ の外気温において、この仕様書に規定する性能などを満足させ、過酷な使用条件に十分耐え得る構造とする。
- 材料及び部品は、日本産業規格、防衛省規格、防衛省仕様書又は同等品以上とし、かつ、製造者の社内規格に合格したものでなければならない。

2.2 部品・付加材等・工具類の互換性

官側で保有する部品、付加材等及び工具類の使用に、極力互換性があるものでなければならない。

2.3 構造・形状・寸法・質量

2.3.1 構造

構造は、調達要領指定書によって指定する場合を除き、2.1及び表5によるほか、“自衛隊の使用する自動車に関する訓令”（以下、“訓令”という。）に適合しなければならない。

なお、細部は、承認図面による。

2.3.2 形状・寸法

形状及び寸法は、図1を標準とする。

なお、細部は、承認図面による。

2.3.3 質量

質量は、表1を標準とする。

なお、細部は、承認図面による。

表1－質量

単位 k g	
区分	規定
空車状態の質量	2 7 7 0
最大積載状態の質量	4 2 8 0

2.4 外観・性能

2.4.1 外観

外観は、次による。

- a) きず、割れ、まくれ、さび、塗装の剥離その他使用上有害な欠陥があつてはならない。
- b) 各部の塗装及びめっきに有害なむらがあつてはならない。

2.4.2 性能

性能は、平たんな舗装路面上において表6の試験方法によって試験したとき、表2による。

表2－性能

項目		規定
最大安定傾斜角		右側及び左側に43度未満の傾きで転覆してはならない。
走行性能	運行性能	異常があつてはならない。
	渡渉能力	水位80 cmでの走行が可能とする。
	航続距離	560 km以上
	速度計目盛調べ	訓令の規定に適合しなければならない。
	燃料消費率	7 km/L以上（60 km/h）
	ブレーキ装置性能	訓令の規定に適合しなければならない。
	加速能力	発進加速100 mで11秒以下
	惰行能力	異常があつてはならない。
	最高速度	100 km/h以上
	最小旋回半径	6.5 m以下
	登坂能力	60 %（tan）以上
	最低速度	4 km/h以下
	騒音	訓令の規定に適合しなければならない。
	排気	

表2－性能（続き）

項目		規定
路外 走行 性能	軟弱地克服能力	最大積載状態において、車両コーン指数 54以下
	超ごう（壕）能力	75 cm以上
	超堤能力	50 cm以上
機能		異常があつてはならない。
接近角		50度以上
背離角		45度以上

2.5 塗装

塗装は、十分な防せい処理をして下塗りを行った後、次の上塗りをを行う。

なお、細部は、承認図面等による。

- a) 車体（バンパを含む。）は、調達要領指定書によって指定する場合を除き、次のいずれかによって塗装し、塗色は、NDS Z 8201の色番号2314（OD色 7.5Y 3/1）とする。
 - 1) JIS K 5572の半つや外部用又は同等品
 - 2) JIS K 5651の半つや外部用又は同等品
- b) シャシ（ディスクホイールを含み、機関、動力伝達装置、制動装置、排気管、消音器などを除く。）は、黒とし、契約の相手方の仕様によって塗装する。
- c) 機関、動力伝達装置、制動装置、排気管、消音器などは、調達要領指定書によって指定する場合を除き、契約の相手方の仕様によって塗装する。
- d) 荷台床面は、滑り止め処理を施す。

2.6 製品の表示

製品の表示は、GLT-CG-Z000001の2.3によるものとし、操縦室内の見やすい箇所にNDS Z 8011の1種銘板を取り付けるほか、取扱上注意を要する箇所及びけん引に関する注意事項を記入した銘板を、操縦室内の見やすい箇所に取り付ける。

なお、細部は、承認図面による。

2.7 標識・自動車番号標

標識及び自動車番号標は、訓令による。

3 品質保証

3.1 保証範囲

官側において、2.2の付加材等を取り付けて運用したことに起因する不具合は、品質保証の範囲外とする。

3.2 監督・検査

監督及び検査は、契約担当官等が定める監督・検査実施要領による。

4 出荷条件

出荷条件は、調達要領指定書によって指定する場合を除き、商慣習による。

5 その他の指示

5.1 全般

その他の指示は、5.2～5.7によるほか、GLT-CG-Z000001の箇条5による。

5.2 納入書類

5.2.1 申請書類

契約の相手方は、訓令に基づく適用除外申請のため、次に示すうち、a)及びb)各4部を、契約後速やかに契約担当官等を経て、調達要求元に提出する。ただし、調達要領指定書によって指定する場合に限り、c)～e)に示す書類を提出する。また、型式及び構造が同様である車両を既に納入している場合は、書類の提出を省略してもよい。

- a) 主要諸元表
- b) 外観四面図
- c) 原動機性能曲線図
- d) 走行性能曲線図
- e) 主要部強度計算書

5.2.2 添付書類

添付書類は、調達要領指定書によって指定する場合を除き、車両1両ごとに表3による。

表3－添付書類

番号	名称	数量	注記
1	取扱説明書	各1	GLT-CG-Z000001の7.1 a)による。
2	納入装備品等の契約不適合に関する契約条項		GLT-CG-Z000001の7.4による。

5.2.3 提出書類

提出書類は、次による。

- a) 契約の相手方は、調達要領指定書によって指定する場合、表4の書類を提出する。
- b) 提出要領は、書面を基準とし、電子媒体で提出する場合は、その旨を事前に提出先に確認する。
- c) 別契約（過年度の契約を含む。）において、表4の書類を提出したことがあり、かつ、書類の内容に変更がない場合は、提出を省略してもよい。ただし、その場合は、当該書類に代えてその旨を記した提出書類省略願（様式適宜）を提出する。

表4－提出書類

番号	名称	数量	提出先	提出時期	注記
1	取扱説明書	1	陸上自衛隊 補給統制本部	納入時	GLT-CG-Z000001の7.1 a)による。
2	完成品写真 ^{a)}	1組	火器車両部	完成検査合格後	前方、後方及び左右側方とする。
注 ^{a)} 提出要領は、カラーキャビネ版4面又は1 600ピクセル×1 200ピクセル以上のサイズの電子画像データ（JPEGフォーマット）とする。					

5.3 携行工具・附属品・予備品

携行工具、附属品及び予備品は、調達要領指定書によって指定する場合を除き、表7～表9による。

5.4 承認用図面等

契約の相手方は、2.3、2.5及び2.6について、契約後速やかに承認用図面及び色見本を作成し、契約担当官等の承認を受ける。

なお，作成及び提出の要領は，**GLT-CG-Z000001**の**箇条6**による。

5.5 技術変更提案

契約の相手方は，技術変更をする場合は，“技術変更提案の処理について（通達）”の別冊によって，契約担当官等に提出する。

5.6 技術資料

契約の相手方は，検査資料その他必要な技術資料を官側の要求によって，開示しなければならない。

5.7 仕様書に関する疑義

この仕様書に関する疑義は，**GLT-CG-Z000001**の**8.3**による。

表5－構造

項目			規定
機関	種類及び形式		4サイクル 水冷ディーゼル直接噴射式 吸気冷却式過給機付き 後処理装置は、設けない。
	最大出力		1 2 5 k W／2 8 0 0 m i n ⁻¹ （標準）
	最大トルク		4 3 1 N・m／1 6 0 0 m i n ⁻¹ （標準）
	充電発電機		交流式 2 4 V－8 0 A
	始動電動機		ピニオンシフト式 2 4 V－5 k W
	燃料タンク		樹脂製 容量1 0 8 L（標準）
	蓄電池		J I S D 5 3 0 1の始動用鉛蓄電池 1 0 5 D 3 1 R×2
動力	駆動方式		フルタイム 4WD
伝達 装置	変速機		4速ロックアップ付き オートマチックトランスミッション 空冷 オイルクーラー付き 電子制御遊星歯車式 シフトロック機構付き リバース警報装置付き
	トルクコンバータ		3要素1段2相形（ロックアップ機構付き）
	副変速機		2段センターデフ式（デフロック付き）
	ハブリダクション装置		減速比 1．6 9
	ディファレンシャル装置		前・後ロック付き リミテッドスリップデフ（トルセン）デフ比 3．4 6 1
懸架 ・ 走行 装置	前・後車軸		ダブルウィッシュボーン式独立懸架 アップーターションバー方式
	タイヤ		3 7×1 2．5 0 R 1 7．5 L T（ラジアルチューブレス） ランフラット（回転中子式） リヤタイヤ空気圧調整装置付き
	リム		1 7．5×8．2 5
かじ 取り 装置	倍力装置		油圧式（ダイレクト駆動型オイルポンプ） 車速感応型
	後輪操だ		だ角応動タイプ 4WS （0－逆相）
制動 装置	常用ブレーキ		油圧真空倍力装置付き（ダイレクト駆動型バキュームポンプ） 4輪ディスクブレーキ インボード型ロードセンシングプロポー ショニングバルブ付き
	駐車ブレーキ		センターブレーキ方式（ドラム）
	補助ブレーキ		排気管開閉弁式排気ブレーキ
車枠	形式		はしご形
	断面形状		箱形
車体	形式		ボンネット形 低姿勢化可能型
	座席	操縦手席	ヘッドレスト付き前後位置調整式セパレートシート 背当裏部蓋付 きポケット付き 背当部可倒式（前・後） シートスライド量 1 6 0 mm
		助手席	ヘッドレスト付きセパレートシート 背当裏部蓋付きポケット付き 座面取り外し式
		後部席	2点式安全バンド付き折り畳み式ベンチシート（8名分）
		座席ベルト	第二種 E L R付き（前席2名分）

表5－構造（続き）

項目		規定
車体 (続き)	前窓	前倒しが可能な構造で、窓ガラスは、 J I S R 3 2 1 1 の合わせガラスAとする。
	サイドドア	スライド昇降窓付き鋼製ドア内張りとし、キーシリンダ及びロック機能を設け、ドアロック機構は、誤操作防止タイプとする。 なお、ドアは、取り外し可能な構造とし、窓ガラスは、 J I S R 3 2 1 1 の強化ガラスとする。
	後部ドア	観音開き式の上部ほろ製（開閉可能な透明ビニル製の窓付き）下部鋼製で、キーシリンダ及びロック機能を設ける。
	ほろ骨	鋼管製とし、後部座席床面からの高さが中央で1 3 5 0 mm（ほろ張力調整機構付き）のものを標準とし、取り付ける。 なお、ほろ骨は、取り外し可能な構造とする。
	車両用ほろ	D S P L 4 7 6 8 のビニロン・ポリエステル交織帆布1 0号（OD色）で一部二重構造とし、両側面は、巻き上げ可能な構造で、取り外しが可能な透明ビニル製の窓付きとする。また、開閉式の天窓を上部に設ける。 なお、生地の変縮に対応可能な構造とする。
	安全バンド	前側部左右ドア及び後部ドアの内側部に、各々取り付ける。
	安全ネット	前席中央部と荷台部との間に取り付ける。 なお、取り外し可能な構造とする。
	サンバイザ	操縦手席及び助手席の前面上部に各1個設ける。
	ラジオ	操縦手席及び助手席の中央部付近に1個設け、ラジオ用アンテナは、着脱が可能な構造とする。
	灰皿	操縦手席及び助手席付近に各1個設ける。
	マップランプ	助手席付近に1個設ける。
	リヤフォグランプスイッチ	プッシュ式とする。
	暖房器	フロント部 温水式 容量1 5 8 4 0 k J / h（標準）
		リア部 温水式 容量1 3 0 0 0 k J / h（標準）プロテクタガード付き
	冷房器（クーラ）	冷房器は、2個搭載する。冷房器単体性能は、冷房能力 4 0 0 0 W、風量3 4 0 m ³ hを標準とする。 GW-D 0 1 1 0 0 1 を引用する派生車の冷房器は、派生車の個別仕様書で改めて冷房器を取り付けることを規定（仕様は、 GW-D 0 1 1 0 0 1 に同じ）した車両にだけ冷房器を取り付ける。
	その他	1 消火器及び非常信号灯（表8による。）の取付具を、操縦室内の適宜の位置に取り付ける。 2 マッドガード（表8による。）を、車体後部左右の適宜の位置に取り付け可能な構造とする。

表5－構造（続き）

項目			規定		
灯火類	前照灯		J I S C 7 5 0 6 - 1 の自動車用電球	2 4 V 7 5 W／7 0 W	2 個
	車幅灯			2 4 V 6 W	2 個
	番号灯			2 4 V 1 2 W	2 個
	制動灯兼尾灯			2 4 V 2 5 W／1 0 W	2 個
	後退灯			2 4 V 2 5 W	2 個
	後部	雾灯		2 4 V 2 5 W	1 個
	方向指示器	前面		2 4 V 2 5 W	2 個
	兼	後面		2 4 V 2 5 W	2 個
	非常点滅灯	側面前部		2 4 V 5 W(R 5 W)	2 個
	管制灯	運転灯		2 4 V 2 5 W	1 個
		車幅灯	2 4 V 6 W×2 （乳白色＋ブラックスモーク）		
		尾灯	2 4 V 6 W×2 （赤）		
		制動灯	2 4 V 6 W×2 （乳白色＋ブラックスモーク）		
	補助前照灯		L E D 2 個		
	室内灯		操縦室付近に 1 個設ける。		
	反射器	後面	2 個		
		側面前部	2 個		
視野 確保 装置	後写鏡		左右各 1 個		
	室内鏡		操縦手席付近に 1 個設ける。		
	窓ふき器		ワイパーブレード 3 個付き 電動リンク式 3 位置（L O . H I . I N T）		
	洗浄液噴射装置		3 個 窓ふき器連動式		
計器盤			速度計，水温計，燃料計，警告灯，指示灯，シフトポジション表示装置などを設ける。		
附属装置			1 ピントルフック及びブレーキ用エアカップリング^{a)} は，車両の後端に取り付け，1 t 級トレーラのけん引可能な構造とする。 なお，ピントルフックは，脱落防止付ロックピンをもつ可動式のものとし，また，車両の後端は，トレーラの回転角が規制可能な構造とする。 2 燃料携行缶^{b)} 1 個を収納可能な取付具を，左側側面部に設ける。 3 タイヤチェーン収納具を，左右両側面部に各 1 個設ける。 4 7 極電線カップリング^{c)} のソケットを，車両の後端付近に取り付ける。 5 電源供給用ソケットは，調達要領指定書によって指定する場合を除き，助手席下部付近に取り付け可能な構造とする。		

表5－構造（続き）

項目	規定
附属装置（続き）	6 ラジエータカバーをラジエータの前部に取り付け、収納は、巻き上げ式とする。 7 洋形おの^{d)}・ショベル^{e)}及びバチツルハシ^{f)}の収納具は、車両右側側面部に設ける。 8 前照灯及び車幅灯には、ライトガードを取り付ける。 9 収納式リヤステップを車両後部に取り付ける。 10 アンダープロテクタを車両前部下面に取り付ける。 11 小銃保持具を操縦手席後部及び助手席後部に取り付ける。 12 機関銃の車載銃架が取り付け可能な構造とする。 13 輸送機による空輸及びプラットホーム投下に必要な器材の取り付け並びに大型ヘリコプターへの搭載及び懸吊空輸が可能な構造とする。 14 無線機〔JVRC-F300^{g)}及びJVRC-F20^{h)}〕及びGS-C214480の車両無線機の架台取付座を助手席の付近に設ける。 15 無線機用ターミナルボックスを無線機用架台取付座付近に設ける。 16 GS-C204492の車両無線機空中線の無線機用アンテナブラケット1個を後部左側に取り付ける。 17 荷台床面に、荷物固縛用フックを取り付ける。 18 車両の側面及び後部に偽装網固定用のフックを取り付ける。 19 助手席乗員用アシストグリップをインパネ面に取り付ける。 20 助手席前側のリレーパネル部に保護カバーを取り付ける。 21 自動車番号標を、車両の前部及び後部に取り付ける。
注 ^{a)}	JIS D 6605
注 ^{b)}	DSP Z 1005
注 ^{c)}	JIS D 6606の7TS-1
注 ^{d)}	洋形おの、頭部重量1.8 kg、頭部寸法130 mm（刃先）×170 mm、柄の長さ900 mm（標準）
注 ^{e)}	JIS A 8902のショベル、丸形、2番
注 ^{f)}	バチツルハシ、頭部重量2.5 kg、頭部全長600 mm、柄の長さ900 mm（標準）
注 ^{g)}	制式要綱 G 2051のJVRC-F300
注 ^{h)}	制式要綱 G 2051のJVRC-F20

表6－試験方法

項目			試験方法	判定基準
構造			冷房器は、動作について異常の有無を確認するとともに、その冷房能力及び風量について社内試験成績証又はそれに類する書類によって確認する。	2.3.1による。
形状			目視による。	2.3.2による。
外観				2.4.1による。
定置試験	寸法・質量		空車状態の車両の全長、全幅、全高、軸距、輪距（前後）及び最低地上高の寸法並びに空車状態の車両質量について、計測器を使用して計測する。 なお、同一名称及び同一型式として、納入実績があり、官側の完成検査を合格している場合は、省略し、資料の提示によって確認する。	2.3.2及び 2.3.3による。
	最大安定傾斜角		空車状態で車両を傾斜台に載せ、車両を右側及び左側に傾けたときの安定度を調べる。ただし、実測を行い難い場合は、計算値の提示に代えてもよい。 なお、同一名称及び同一型式として、納入実績があり、官側の完成検査を合格している場合は、省略し、資料の提示によって確認する。	2.4.2による。
	渡渉能力		最大積載状態で、河底堅硬な静水中を走行して調べる。又は、空車状態で、浸水によって走行不能となる部位の最低地上高を間接的方法によって計測する。 なお、同一名称及び同一型式として、納入実績があり、官側の完成検査を合格している場合は、省略し、資料の提示によって確認する。	
走行性能	運行試験	中距離運行試験	J I S D 1 0 1 8及びJ I S D 1 0 2 2によって最大積載状態で2 0 0 k m以上走行し、その間各装置の機能、作動、漏れ、亀裂、破損、異音、過熱などを調べる。 なお、同一名称及び同一型式として、納入実績があり、官側の完成検査を合格している場合は、省略し、資料の提示に代え走行機能検査のみを行う。	
		長坂路試験	J I S D 1 0 1 8による。 なお、同一名称及び同一型式として、納入実績があり、官側の完成検査を合格している場合は、省略し、資料の提示によって確認する。	

表6－試験方法（続き）

項目		試験方法	判定基準
走行性能 (続き)	定地試験	不整地試験 最大積載状態で起伏凹凸のある場所を10 km以上走行又は1時間走行し、走行距離及び走行時間、燃料消費量、各部の温度（大気・冷却水・潤滑油など）を計測する。 なお、同一名称及び同一型式として、納入実績があり、官側の完成検査を合格している場合は、省略し、資料の提示によって確認する。	2.4.2による。
	航続距離	平均燃料消費率×燃料タンク容量による計算値とする。	
	速度計目盛調べ	J I S D 1 0 1 1による。 なお、同一名称及び同一型式として、納入実績があり、官側の完成検査を合格している場合は、省略し、資料の提示によって確認する。	
	燃料消費率	J I S D 1 0 1 2による。 なお、同一名称及び同一型式として、納入実績があり、官側の完成検査を合格している場合は、省略し、資料の提示によって確認する。	
	ブレーキ装置性能	主制動装置及び駐車ブレーキは、ブレーキテスタによる試験を実施し、制動力が保安検査基準に適合していることを確認する。ただし、ブレーキテスタを用いて試験することが困難であるときに限り、走行試験等の適切な方法によって制動力を確認する。 駐車ブレーキは、最大積載状態で40 %勾配（tanの値）の平坦な乾燥したコンクリート又は同等の摩擦係数をもつ路面での停止状態を調べる。 なお、同一名称及び同一型式として、納入実績があり、官側の完成検査を合格している場合は、省略し、資料の提示によって確認する。	
	加速能力	J I S D 1 0 1 4による。 なお、同一名称及び同一型式として、納入実績があり、官側の完成検査を合格している場合は、省略し、資料の提示によって確認する。	
	惰行能力	J I S D 1 0 1 5による。 なお、同一名称及び同一型式として、納入実績があり、官側の完成検査を合格している場合は、省略し、資料の提示によって確認する。	
	最高速度	J I S D 1 0 1 6による。 なお、同一名称及び同一型式として、納入実績があり、官側の完成検査を合格している場合は、省略し、資料の提示によって確認する。	

表6－試験方法（続き）

項目		試験方法	判定基準
走行性能 （続き）	定地試験 （続き）	登坂能力	2.4.2による。
		最小旋回半径	
		最低速度	
		騒音	
	排気		
路外走行性能	軟弱地克服能力	表10の計算式によって算出する。	
	超ごう（壕）能力	路面に対しほぼ直角なごう（壕）を挟んだ水平の路面で、最大積載状態の車両を壕に対し直角に正対させた後、変速機を最低速度段にして、最低速度でごう（壕）を乗り越えられるかを調べる。 なお、同一名称及び同一型式として、納入実績があり、官側の完成検査を合格している場合は、省略してもよい。	
	超堤能力	路面に対しほぼ直角・平行の堤で、最大積載状態の車両を堤に対し直角に正対させた後、変速機を最低速度段にして、最低速度で堤を乗り越えられるかを調べる。 なお、同一名称及び同一型式として、納入実績があり、官側の完成検査を合格している場合は、省略してもよい。	

表6－試験方法（続き）

機能	運行試験による。	2.4.2による。
接近角	図面上において調べる。	
背離角		
塗装	目視による。	2.5による。
製品の表示		2.6による。
標識		2.7による。

表7－携行工具

名称		数量	摘要
ねじ回し ^{a)}	5. 5×7.5	1	J I S B 4 6 0 9のねじ回し 普通型 強力級
	8×15.0	1	
十字ねじ回し ^{a)}		1	J I S B 4 6 3 3の十字ねじ回し H型2番 100普通型
モンキレンチ ^{a)}		1	J I S B 4 6 0 4のモンキレンチ全鍛造品 強力級250 mm
スパナ ^{a)}	10×12	1	J I S B 4 6 3 0のやり型両口スパナ
	12×14	1	
	17×19	1	
タイヤゲージ ^{a)}		1	J I S D 8 2 0 1の自動車用タイヤゲージ相当品 棒状指示式（高压用）
コンビネーションプライヤ ^{a)}		1	J I S B 4 6 1 4のコンビネーションプライヤ 200 mm
ラチェットレンチハンドル		1	差込み角 9. 5 mm
ソケットレンチ		1	口径12 mm 6角
工具袋		1	上記の工具を収納可能なもので、生地は、帆布製 OD色とする。
ホイールナットレンチ		1	—
ホイールナットレンチバー		1	—
注 ^{a)} J I S規格を標準とし、同等以上の製品でもよい。			

表8－附属品

名称	数量	摘要
消火器	1	粉末消火器，A B C ・ 1 . 0 k g 加圧式（又は蓄圧式）自動車用（“消防法”及び“国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律”の規格適合品）とする。ただし，包装は，除く。
非常信号灯	1	“道路運送車両の保安基準”の適合品，乾電池式
マッドガード	1 組	車体後部左右(取付具を含む。)

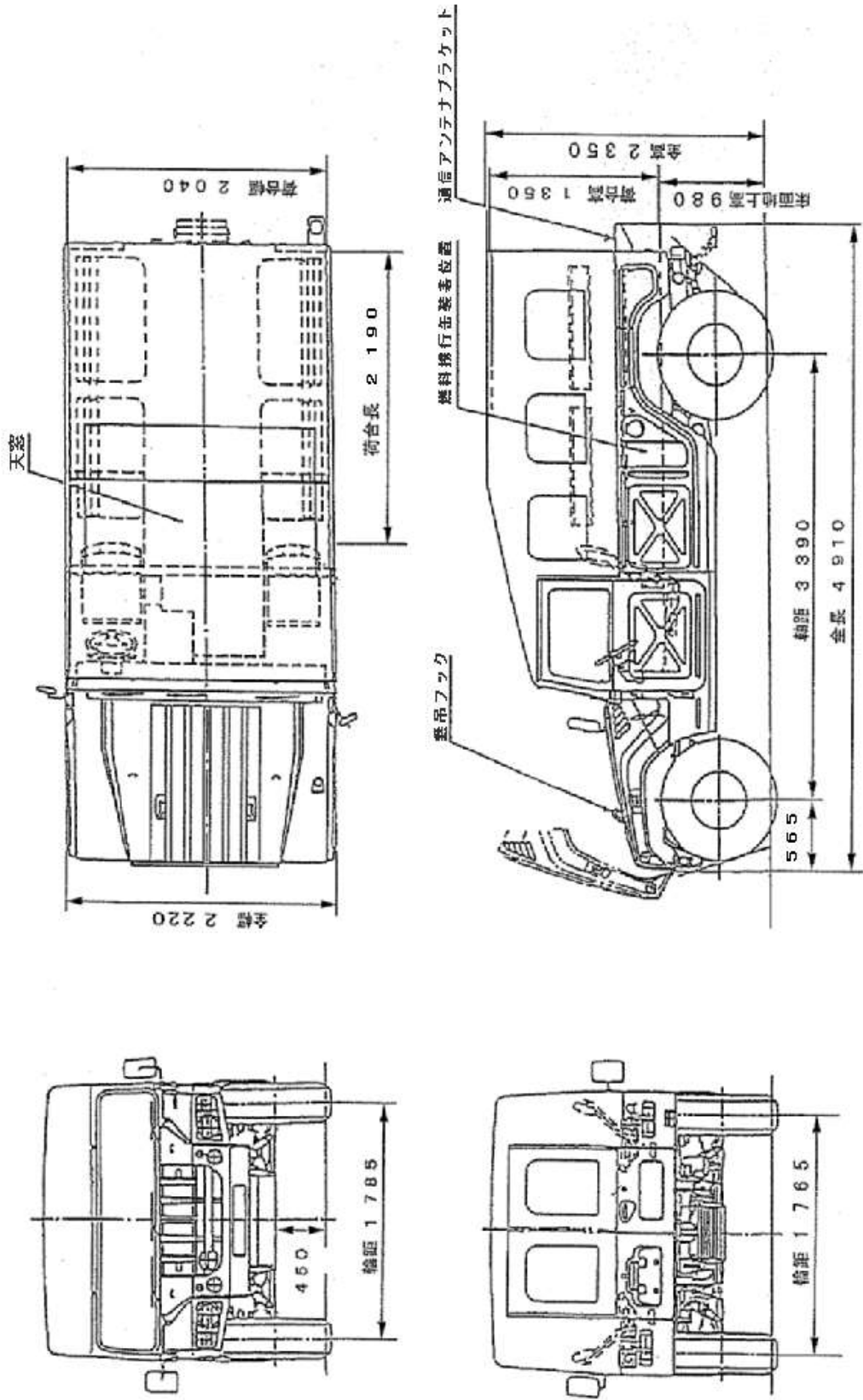
表9－予備品

名称	数量	注記	
電球	1 組	J I S C 7 5 0 6 - 1 の自動車用電球	2 4 V 7 5 W / 7 0 W 1 個
			2 4 V 2 5 W / 1 0 W 1 個
			2 4 V 2 5 W 1 個
			2 4 V 1 2 W 1 個
			2 4 V 5 W (R 5 W) 1 個
		—	2 4 V 6 W 1 個
収納箱	1	上記部品を収納可能なもの	
ヒューズ	1 組	2 5 A 1 個	ヒューズボックス内に収納
		1 5 A 1 個	
		1 0 A 1 個	
		5 A 1 個	

表10－軟弱地克服能力計算表

項目	
車両総重量（GVW）（lb）	
エンジン馬力（PS）	
最低地上高（in）	
タイヤサイズ	
タイヤ幅（in）	
ディスク径（in）	
タイヤ係数（A）	$A = 1.25 \times \text{タイヤ幅} / 100$
重量係数（B）	$35000 \text{ lb 以上} : 1.1$ $15000 \text{ lb} \sim 35000 \text{ lb} : 1.0$ $15000 \text{ lb 以下} : 0.9$
クルーザ係数（C）	$C = 1.00$
車輪係数（D）	$D = \text{GVW} / (\text{車輪数} \times 1000)$
クリアランス係数（E）	$E = \text{最低地上高} / 10$
エンジン係数（F）	トン当たり馬力 10以上：1.0， 10以下：1.05
接触係数（G）	$G = \text{GVW} / T$ ， $T = \text{タイヤ幅} \times \text{ディスク径} \times \text{タイヤ本数}$
伝導係数（H）	流体 1.0， 機械 1.05
機動係数（M）	$0.6 \{ [(G \times B) / (A \times C) + D - E] \times F \times H \} + 20$
コーン指数（L）	$L = 0.46 M + 25$

単位 mm



注記 空車状態の寸法である。

図1—高機動車